



農村環境改善センター 跡地利用の考えは

原 裕司議員

状況を考慮し国と協議、施設を整備する
市長



▲取り壊される農村環境改善センター

問 農村環境改善センターは、輪中地帯である立田町福原地区の避難所の位置づけであった。取り壊しにより、唯一の避難所がなくなることで、不安の声も寄せられている。跡地利用の考えは。

答 跡地には、国土交通省の防災拠点を早急に整備するよう協議を進めている。それに併せ、地元から要望がある一時的な避難場所として活用できる施設整備を考えている。

問 協議では、防災拠点にどのような物を整備するのか。

答 堤防決壊などの際、いち早く対応するため「復旧用土砂」「根固めブロック」などの資機材の備蓄スペースや、ヘリポートを整備することで、この地域の防水機能の強化につながるよう国と調整している。

問 センター周辺の堤防からは、名古屋駅周辺に

立ち並ぶ商業ビルや御嶽山が見え、近くには、千本松原や船頭平閘門などの歴史的建造物もあり、多くの方々が来場されている。地域の資源をみんな

で活かす本市の「かわまちづくり計画」の進捗状況は。

答 ケレップ水制周辺整備と三川公園周辺整備や散策路、観光船ルートの充実を図るため、これまでに継続事業として堤防から川辺まで下りるための坂路整備や樹木伐採を進めている。

ている。

平常時にも、道の駅や東海広場等に多くの方々が訪れている。この状況も考慮しながら施設整備をすることが必要だ。

国と協議、調整を行い、一日でも早く整備が行われるよう我々としてもしっかりと努力していく。

その他の質問

●立田ふれあいの里を「防災道の駅」に

問 今後、防災拠点の整備に合わせ、水辺の観光資源や環境も生かした「川の駅的な建屋」を整備し、福原地区の一時避難場所として活用することも一つの手法だ。市長の考えは。

答 国において広域的な避難施設を整備する計画がある。この計画と併せて整備するべきだと考えて